

関東信越厚生局長 殿

学校法人 東邦大
開設者名 理事長 炭山 嘉

東邦大学医療センター大森病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	95.58 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	256人	155人	395.5人	看護補助者	33人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	2人	4.8人	理学療法士	9人	臨床検査技師	90人
薬剤師	51人	1人	51.9人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	368人	0人	368.0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	47人	2人	48.9人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	586人	16人	594.4人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	7人	2人	8.9人	栄養士	2人	その他の技術員	51人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	97人
管理栄養士	15人	0人	15.0人	診療放射線技師	46人	その他の職員	59人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	809.5人	1.4人	810.9人
1日当たり平均外来患者数	2,376.2人	39.5人	2,415.7人
1日当たり平均調剤数	入院 1,004.9剤	外来 274.3剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
超音波骨折治療法	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	0人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	10人
前眼部三次元画像解析	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Lactulose-水素呼吸試験による小腸通過時間測定	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 小腸で吸収されないラフチロースが盲腸に達すると、腸内細菌に利用され、H ₂ ガスが発生する。 H ₂ は呼吸へ排出されるため、呼吸中H ₂ を測定することにより、小腸通過時間を測定できる。 膠原病など腸管機能低下が疑われる症例に施行した。			
医療技術名	¹³ C-dipeptide呼吸試験による膵外分泌検査	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要: ¹³ C-標識ペプチドは膵酵素、カルボキシペプチダーゼによって分解され、呼吸中へ ¹³ CO ₂ として排出される。 膵外分泌不全が疑われた症例について、 ¹³ C-dipeptide呼吸試験を行った。			
医療技術名	1- ¹³ C・2- ¹³ C・3- ¹³ Cglucose呼吸試験	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 6ヶのC原子の代謝は各々異なっているため、1. 2. 3位のC原子にラベルして投与し、 ¹³ CO ₂ の変化を観察すると、糖酸化、糖新生、TCA回路の活性などの評価が可能である。糖代謝異常が疑われる症例に施行した。			
医療技術名	クッキーテスト	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 食後の糖及び脂質代謝を同時に評価するため、クッキー590kcalを摂取していただき、経時的に血糖・T-cho・RLP-c・T-G・RLP-I・インスリンを測定した。これを治療効果判定に用いた。			
医療技術名	内視鏡的膵管ステント留置術	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要: 主膵管狭窄を伴う慢性膵炎例			
医療技術名	総胆管大結石例に対するESWL治療	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 他の碎石具による破砕が不能な総胆管結石例に対して、ESWL治療を施行している。			
医療技術名	内視鏡的乳頭部腫瘍切除術	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 十二指腸主乳頭部腺腫に対して内視鏡的切除を行っている。			
医療技術名	膵石症に対するESWL治療	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 主膵管内にある膵石症に対してESWLによる破砕療法を行っている。			
医療技術名	リザーバー肝動注化学療法	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 進行肝細胞癌患者に対して、動注ポンプを大腿鼠径皮下へ埋め込み、固有肝動脈へ開口する様に留置したカテーテルへ接続し、動注ポンプを通して24時間継続的に抗癌剤を注入する。			
当該医療技術の概要:	バルーン閉塞下逆行性静脈閉塞術	取扱い患者数	11人
胃静脈瘤等を形成する側副血行路を経静脈的に閉塞する。			
当該医療技術の概要:	腹腔-静脈シャント挿入術	取扱い患者数	2人
難治性腹水に対して腹腔-静脈シャントにより腹水のコントロールを行う。			
医療技術名:	CGMを用いた24時間閏連続	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要: 細胞外液のブドウ糖濃度を連続測定することによって24時間連続にて血糖値を推定するシステム。			
医療技術名	ロータブレード	取扱い患者数	16人
当該医療技術の概要: DCA同様に冠動脈病変を機械的に取り除くアテレクトミーに属する治療である。先端にダイヤモンドチップを散りばめたバーの高速回転(毎分15-20万回転)により病変を破砕し末梢に洗い出す。透析患者など高度石灰化病変では本治療方法でのみ治療可能であり、施設基準により本邦においてロータブレードの施行可能な施設は限られている。			
医療技術名	電気生理学的検査	取扱い患者数	41人
当該医療技術の概要: 徐脈、上室性頻拍、心室性頻拍等の不整脈患者に対して、不整脈の起源、機序、薬物の有効性を評価する検査であり、不整脈診断と原因不明の失神に対しては、重要な検査である。			

医療技術名 加算的平均心電図	取扱い患者数 109人
<p>当該医療技術の概要： 心房、心室の遅延電位を測定し、発作性心房細動、心室頻拍、心室細動などの重症不整脈を生ずる可能性を検出する検査法である。</p>	
医療技術名 不整脈におけるカテーテルアブレーション	取扱い患者数 61人
<p>当該医療技術の概要： 経皮的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、標的部位に固定して、体表に装着した対極板とのあいだで高周波通電を行い、頻拍の原因となる異常興奮発生部位、異常興奮回路・伝導路を選択的に焼灼し頻拍を根治する治療法である。適応疾患としてはWPW症候群、心房細動、心室頻拍など、ほぼ全ての不整脈である3次元マッピングシステムの併用により開心術後不整脈にも行っている。</p>	
医療技術名 血管内超音波 (IVUS)	取扱い患者数 292人
<p>当該医療技術の概要： 冠動脈造影では評価し得ない冠動脈の三層構造およびプラークの性状が観察可能である。さらに冠動脈ステント植え込み後の拡張評価において遠隔期再狭窄を軽減する上で重要な所見が得られる。すなわちステントの冠動脈壁への密着、最小血管内腔面積を評価し、エンドポイントを決めることにより当施設における血行再建後の再狭窄率は他施設に比し低率となっている。</p>	
医療技術名 PTCA (POBA)	取扱い患者数 309人
<p>当該医療技術の概要： 経皮的冠動脈形成術の基本であり、冠動脈狭窄病変をバルーンにて拡張する方法である。冠動脈ステントの台頭によりPOBA単独で終了する症例は減少しているが、ステント症例の増加に伴いステント再狭窄などでPOBAにて高圧拡張を行う例が増加している。</p>	
医療技術名 冠動脈ステント	取扱い患者数 300人
<p>当該医療技術の概要： 現在冠動脈インターベンション (PCI) の中心的治療方法であり当施設においても今年度の92%が本治療を選択されている。冠動脈内に筒状の金属を留置する方法であり数種類のステントが臨床使用されている。</p>	
医療技術名 血栓吸引療法	取扱い患者数 63人
<p>当該医療技術の概要： 急性心筋梗塞の血行再建において通常のステント留置では血栓による末梢塞栓がまれでなく、予後不良となる因子のひとつである。血栓吸引療法は閉塞した病変においてその血栓を機械的に吸引し末梢塞栓を防ぐ方法である。単純な吸引カテーテルと末梢に血栓をせき止めるためのバルーンを拡張させその上で吸引するdistal protection deviceに分けられる。後者は末梢塞栓が問題となる変性静脈グラフト病変の待機的治療においても極めて有効であり当施設でも第一選択としている。</p>	
医療技術名 終液ポリグラフィ	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要： 慢性心不全患者の30-70%に睡眠時無呼吸症が合併している。終液ポリグラフィによりtypeおよび重症度を判定し、mCPAP、ASL、夜間酸素治療のいずれの治療が有用か判定している。</p>	
医療技術名 ASV Cadaptive servo-ventilator	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要： 上記、呼吸補助器具を使用することにより、重症心不全患者の血行動態を改善する事ができる。当院ではASV使用前後に心エコーによるパラメータをチェックし、導入が有効と判定できる患者様に導入治療をしている。</p>	
医療技術名 冠動脈MDCT	取扱い患者数 300人
<p>当該医療技術の概要： 胸痛スクリーニング、バイパス術後患者様の冠動脈病変、重症度、術後開存しているか等のスクリーニングを行っている。</p>	
医療技術名 心臓MRI	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要： 造影5-10分後のdelayed enhanced MRI (DEMRI)により心筋壊死範囲と領域を判定し、心臓viabilityを評価している。</p>	
医療技術名 心電図同期心筋血流SPECT	取扱い患者数 350人
<p>当該医療技術の概要： 心臓核医学検査において、心筋血流SPECT検査で心電図同期法を用いることで従来の心筋血流評価に加えて心機能を同時に評価することができ、診断精度が向上する。</p>	

医療技術名	再発・難治性非ホジキンリンパ腫に対するPBSCT	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要： 再発・難治性非ホジキンリンパ腫症例に対して、サルベージ療法に反応がある場合、末梢血造血幹細胞移植を行う。			
医療技術名	多発性骨髄腫に対するBD療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： ボルテゾミブ+デキサメタゾンによる難治性又は再燃多発性骨髄腫の治療。			
医療技術名	関節リウマチ及び膠原病に対する免疫抑制薬の適正使用	取扱い患者数	500人
当該医療技術の概要： 種々の免疫抑制薬が関節リウマチ及び全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対して使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行なった。			
医療技術名	関節リウマチ及びベーチェット病に対する生物学的製剤の適正使用	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要： TNF阻害薬などの生物学的製剤が、関節リウマチやベーチェット病に使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った			
医療技術名	二核種同時収集による三次元画像	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 頭頸部、脳に対し二核種の同時投与、収集を行い、病巣の確認を行う。心臓では、心機能、血流を同時に把握し、三次元画像として表示する。			
医療技術名	脳血管内外科手術	取扱い患者数	80人
当該医療技術の概要： 脳動脈瘤、脳動静脈奇形あるいは硬膜動静脈瘻に対して、コイルなどを使用し、血管内閉塞術を行う。			
医療技術名	脳室内出血に対する神経内視鏡下手術	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： より低侵襲な手術が可能となり、今後さらに症例増加が考えられている。			
医療技術名	脳機能モニタリング	取扱い患者数	40人
当該医療技術の概要： 術中に脳の運動機能・言語機能・脳幹機能をモニタリングすることにより、術後の神経欠落症状を軽減させ得る			
医療技術名	未熟児脳室内出血後水頭症に対する待期的外科療法	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要： 未熟児脳室内出血後水頭症に対して、V-Pシャント術までにミニチュアCSFリザーボアを留置し、定期的に髄液排除を行い、児の生長を待って、V-Pシャント術を行う、もしくは、手術の回避を検討し得る。			
医療技術名	ケロイド・肥厚性瘢痕に対する治療	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要： ケロイド・肥厚性瘢痕に対し、部位、性状に応じて、切除手術、トラニラスト内服、トリアムシロン局注などの組み合わせ療法を行い良好な成績を得ている。			
医療技術名	色素性疾患に対する治療	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要： 外傷、熱傷後の色素沈着症、色素脱に対し、レーザー、削皮術、植皮術、軟膏療法等の組み合わせにより良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	骨膜弁/HAP複合移植による頭蓋顎顔面の再建	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 外傷、悪性腫瘍摘出後の頭蓋顎顔面領域における骨欠損に対し、肋骨骨膜付広背筋弁および他の血管柄付骨膜弁を挙し、人工骨(ハイドロキシアパタイト)を被覆し、骨膜弁・HAP複合体を作成、移植を行い良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術計画	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は、多くが複雑な形状を呈している。形状を実物大立体モデル(模型)により手術前に把握し、手術計画をたて、術後の形状をシミュレーションすることにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。			
医療技術名	遊離・有茎動脈皮弁術	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 頭蓋顎顔面領域や、躯幹、四肢軟部悪性腫瘍切除後などの広範囲組織欠損に対し、マイクロサージャリーを用い、複合組織皮弁移植による再建を行っている。			

医療技術名 成長ホルモン治療	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 成長ホルモン分泌不全性低身長、ターナー症候群、軟骨異栄養症における成長障害に対し、成長ホルモン治療を行っている。	
医療技術名 先天性甲状腺機能低下症の診断と治療	取扱い患者数 25人
当該医療技術の概要: 新生児マス・スクリーニングにて高TSH血症を指摘された新生児において、治療の必要性の有無を検討すると共に、幼児期に休薬後TRH負荷試験および甲状腺シンチグラフィを施行し病型診断を行っている。	
医療技術名 肺高血圧に対するプロスタサイクリン(PGI ₂)(フローラン)持続静脈療法	取扱い患者数 45人
当該医療技術の概要: 原発性および二次性肺高血圧に対するプロスタサイクリン(フローラン)持続静注療法の開始ならびに在宅管理の指導を行い、全国症例の約1/4を観察中であり、良好な成績を得ている。特に若年例・小児例では全国の80%以上の症例を治療している。	
医療技術名 先天性心疾患の胎児心エコー検査	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 「先進医療」として指定され本院が国内で2番目に認可された。胎児に心疾患の疑いがある場合、ご家族の希望により心疾患の出生前診断を行いあわせて治療方針や予後の説明までを行なう。	
医療技術名 重症再生不良性貧血に対するATG療法	取扱い患者数 1人
当該医療技術の概要: 重症の再生不良性貧血の症例に対して、抗胸腺細胞グロブリン(ATG)を使用し治療した。	
医療技術名 けいれん性疾患に対する長時間脳波記録、及び解析	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: けいれん性疾患の発作型や発作頻度の確認のため、または偽けいれんとの鑑別のために、携帯型長時間脳波記録を行い、脳波所見と発作型の分析を行っている。	
医療技術名 小児難治性白血病に対する集学的治療	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要: 難治性白血病に対し、組織形態学的、免疫学的、分子生物学的診断を行い、専門の教育されたスタッフによって、無菌室、無菌ベッド等の施設を用いた診療が可能である。	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル検査術	取扱い患者数 100人
当該医療技術の概要: 先天性心疾患と後天性心疾患(巨大冠動脈瘤を伴う川崎病、原発性肺高血圧など)に対し、心血管造影、選択的冠動脈造影などを行なった。適応と緊急度に応じて夜間や週末などにも対応可能である。	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル治療	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要: 動脈管開存や肺動脈弁狭窄などの先天性心疾患及び術後末梢性肺動脈狭窄などの症例に対してカテーテル治療を行ない手術を回避し得た。	
医療技術名 肺高血圧症等に対するNO吸入療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 原発性肺高血圧症、Eisenmenger症候群に代表される先天性心疾患に伴う肺高血圧症や重症肺炎に伴うARDS等の患児に対し間欠的ないし持続的にNO(一酸化窒素)を吸入させ、良好な結果を得ている。	
医療技術名 新生児期重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 完全大血管転位、大動脈縮窄など新生児期早期に重症心不全を呈したチアノーゼを呈する症例(先天性心疾患)に対して、抗心不全療法、PGE ₂ 、授与、人工換気などを施行。診断確定後外科的治療(心内修復術、姑見術)を施行してきた。	
医療技術名 慢性腎不全小児の成長の評価と治療	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要: 著しい、成長・発達障害をきたす小児の慢性腎不全に対し、透析中、腎移植後を含めて評価し、適応例にはホルモン療法を行っている。	
医療技術名 難治性てんかん治療	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 側頭葉てんかん、前頭葉てんかん、てんかん性精神病等について、脳波、脳MRI、脳スペクトを施行し、臨床発作の症状と組み合わせ、薬物選択を行っている。	
医療技術名 顆粒球減少症に対するG-CSF療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 顆粒球減少症の児に対し、G-CSFを投与した。	

医療技術名	新生児重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE1製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している。			
医療技術名	新生児持続肺高血圧症における一酸化窒素吸入療法	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 新生児持続性肺高血圧症に対し、微量のNOガスを投与した。			
医療技術名	肺サーファクタント補充療法	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 未熟児呼吸窮迫症候群に対し、人工肺サーファクタント補充療法を行った。			
医療技術名	気管支肺異形成症に対する高終末呼吸換気療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 気管支肺異形成症に対し無気肺を予防しつつ長期に人工換気療法を行った。			
医療技術名	未熟児動脈管開存症に対する薬物的閉鎖療法	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 未熟児動脈管開存症に対し、心エコー検査で評価した後、インドメタシン静注療法で閉鎖させた。			
医療技術名	未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した。			
医療技術名	強膜トンネル付きトラベクトミー	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 難治性緑内障に対し、従来のトラベクトミーの短所を改良し、術後流出路の閉塞を起さなくし、眼圧コントロールに良好な成績を得ている。			
医療技術名	二重強膜弁法トラベクトミー	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミーの困難性を二重強膜弁を作成しアプローチすることにより、本法を簡単にし、さらにトラベクトミーへの変換、ジヌトミーの併用、白内障手術との同時手術に有用である。			
医療技術名	スーチャー・カナリゼーション(suture canalization)	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 従来のトラベクトミー、トラベクトロミーの術中および術後の合併症をより少なくした方法で、超音波水晶体摘出術、眼内レンズ挿入術との三重手術に応用し良好な成績を得ている。			
医療技術名	黄斑内孔に対する内境界膜剥離除去術	取扱い患者数	19人
当該医療技術の概要: 黄斑円孔に対して硝子体手術のみでなく、内境界膜を剥離除去することにより円孔の閉鎖率の向上を図る。			
医療技術名	光線力学療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 光感受性物質をあらかじめ血管内に取り込ませ、それに特定して感受性の高い波長の光を照射し、活性化し、組織を阻害し、新生血管を阻害し正常組織に対する障害をおさえる。その結果失明のリスクを減らす。			
医療技術名	極小切開白内障手術	取扱い患者数	24人
当該医療技術の概要: 外科手術は常に切開のダウンサイジング化が目標であると考えた。創に2mm以下の白内障術を目標に現在2.3~2.4mmにて手術を行なっている。			
医療技術名	総合周産期センターにおける早産予防の高度管理	取扱い患者数	252人
当該医療技術の概要: 総合周産期センター、母体胎児集中治療室において、厳重なモニター管理の下、妊娠継続を計っている。胎児娩出時期を周産期と検討し決定している。			
医療技術名	生殖補助医療における非侵襲的卵巣刺激法	取扱い患者数	500人
当該医療技術の概要: 従来にの卵巣刺激法と比較して、自然周期卵巣低刺激法を施行することにより、身体的・経済的負担を軽減し、良好胚を獲得することができる。			
医療技術名	多胎妊娠の集学的治療法	取扱い患者数	53人
当該医療技術の概要: 双胎、品胎に対し、総合周産期センターにおいて、厳重な管理の下、早産、合併症の発症予防に周産期管理を行っている。特に、品胎に対しては、新生児科医、麻酔科医と連携をとり娩出時期を決定している。			

医療技術名 妊娠高血圧症候群妊婦の管理	取扱い患者数 57人
<p>当該医療技術の概要： 食事及び薬物療法により、妊娠高血圧症をコントロールし、母児共に最適な時期での分娩時期を検討している。 また、内科とも連携し、より詳細な母体の全身状態を評価している。</p>	
医療技術名 腹腔鏡下手術	取扱い患者数 330人
<p>当該医療技術の概要： 侵襲の少ない手術として、腹腔鏡下手術が年々増加している。腹腔鏡下に卵巣腫瘍、子宮筋腫核出術、 子宮全摘術、子宮外妊娠の手術が施行されており、良好な成績をあげている。</p>	
医療技術名 TESE-ICSI MD-TESE-ICSI	取扱い患者数 130人
<p>当該医療技術の概要： リプロダクションセンター婦人科部門と泌尿器科部門と協力し、無精子症症例に対して精巣組織より回収した、 精巣精子を用いた顕微受精を行い、従来自らの遺伝情報を継承した児を得ることでできなかった 重症男性不妊症症例でも児を得ることが出来るようになった。</p>	
医療技術名 コルポスコピー検査	取扱い患者数 276人
<p>当該医療技術の概要： コルポスコピーを用い、子宮頸部異型上皮、子宮頸癌の早期発見・早期治療に有用な検査を行っている。</p>	
医療技術名 婦人科悪性腫瘍手術	取扱い患者数 76人
<p>当該医療技術の概要： 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、外科的処置をメインに治療を行っている。</p>	
医療技術名 婦人科悪性腫瘍に対する化学療法	取扱い患者数 91人
<p>当該医療技術の概要： 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、各腫瘍・組織型に応じた抗癌剤を用いての 化学療法を行い、良好な成績を得ている。</p>	
医療技術名 外来化学治療	取扱い患者数 17人
<p>当該医療技術の概要： 主に卵巣癌術後再発患者さんに対して、QOLを重視し外来での化学療法を行っている。</p>	
医療技術名 遺伝外来における遺伝相談および出生前診断	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要： 遺伝性疾患保因者、家族らの遺伝相談、出生前診断および周産期管理</p>	
医療技術名 卵巣予備能力解析	取扱い患者数 60人
<p>当該医療技術の概要： 従来のFHSやE2による評価に加え、抗ミュラー管ホルモン(AMH)を細くすることにより、加齢に伴い 低下する卵巣機能を詳細に評価し、妊孕能評価に応用している。</p>	
医療技術名 卵巣機能低下症例に対する体外受精・顕微授精-胚移植	取扱い患者数 170人
<p>当該医療技術の概要： 社会背景の変化に伴い、高齢化している拳児希望患者(生理的卵巣機能低下症例)の体外受精や 顕微授精に際しての採卵において、確実に卵を獲得するための網羅的解析・評価を実施している。</p>	
医療技術名 染色体分析・出生前診断・遺伝相談	取扱い患者数 70人
<p>当該医療技術の概要： 羊水染色体検査を実施し、その結果の評価と説明を行い、さらに希望症例に対して遺伝相談を実施している。</p>	
医療技術名 絨毛染色体分析・遺伝相談	取扱い患者数 30人
<p>当該医療技術の概要： 流産胎児の染色体分析を実施し、流産と染色体異常の因果関係等について解析・評価を行い、 流産の原因検索を行っている。</p>	
医療技術名 家庭用品健康被害モニター	取扱い患者数 25人
<p>当該医療技術の概要： 種々の家庭用品による皮膚障害(刺激性、光毒性、アレルギー性、光アレルギー性、接触蕁麻疹等)例を報告するとともに、 パッチテスト、光パッチテスト、皮内反応、プリックテスト等の検査を施行し、原因物質を確定し、再発の防止に役立っている。</p>	
医療技術名 家庭用品臨床検査試験	取扱い患者数 60人
<p>当該医療技術の概要： 家庭用品に用いる化学物質(抗菌剤、防腐剤等)の安全性をパッチテスト、光パッチテストを施行して調べている。</p>	
医療技術名 ホルミウムレーザーによる治療 TUL	取扱い患者数 36人
<p>当該医療技術の概要： ホルミウムレーザー発生装置により、結石・尿路狭窄の治療を行っている。</p>	

医療技術名	ホルミウムレーザーによる前立腺肥大症手術 HOLEP	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: HOLAP、HOLEPによる前立腺肥大症の手術療法を行っている。			
医療技術名	尿失禁に対するTVT手術 TOT	取扱い患者数	14人
当該医療技術の概要: 尿失禁に対して、女性医師による診療・治療、TVT手術を行っている。			
医療技術名	顕微鏡下精巣内精子採取術	取扱い患者数	48人
当該医療技術の概要: 通常の精巣内精子採取術でも精子を採取出来ない無精子症患者に対する最終的手術。			
医療技術名	逆行性射精に対する膀胱内精子回収術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: DMや、後腹膜腔手術後の逆行性射精に対し、膀胱内に射精された精子を回収する方法。			
医療技術名	陰茎弯曲症形成手術	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 先天性陰茎弯曲症に対するプリケーション法 ペロニー病に対する静脈移植法			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺腫瘍(悪性)摘出術	取扱い患者数	31人
当該医療技術の概要: 開放手術でなければ施行が困難とされていた前立腺全摘手術に対して、 都内では7番目の施設認定を受け、より入院期間を短くして施行している。			
医療技術名	内視鏡下鼻内手術	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 副鼻腔炎に対し、内視鏡下にて手術を施行する。			
医療技術名	3D-CTによる中耳耳小骨病変の画像診断	取扱い患者数	70人
当該医療技術の概要: 慢性中耳炎の手術前後に3D-CTで、中耳病変の立体的確証を行い手術成績を向上させる。			
医療技術名	耳科手術への硬性内視鏡の導入	取扱い患者数	60人
当該医療技術の概要: 外耳道から内視鏡を挿入して中耳内を詳細に観察して、内耳や顔面神経を損傷することのない安全な耳科手術をめざす。			
医療技術名	ナビゲーション システムを使用する副鼻腔手術	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 解剖学的にアプローチが困難な副鼻腔手術に内視鏡とナビゲーションを併用した安全で確実な手術			
医療技術名	心身症のバイオフィードバック療法	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 片頭痛、緊張型頭痛、痙攣斜頸、書痙等、主として神経筋肉系の心身症で、薬物療法では効果が不十分なケースは、 現状では決め手となる治療が少ない。当院では、これらのケースにバイオフィードバック療法を行い成果をあげている。			
医療技術名	加算的平均心電図(LP)	取扱い患者数	102人
当該医療技術の概要: 心室細動、心室頻拍、発作性心房細動などの重症不整脈が出現する可能性を診断するために、 心房、心室の遅延電位を計測する。			
医療技術名	超音波造影剤(ソナゾイ/レボビスト)を用いた超音波検査	取扱い患者数	784人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤(ソナゾイ/レボビスト)を用いた消化器系腫瘍の質的診断と腫瘍凝固療法等の治療後効果判定や びまん性肝疾患(肝炎・肝硬変)の進行度評価法の検討。			
医療技術名	超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での肝腫瘍治療	取扱い患者数	136人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのマイクロ波(PMCT)、ラジオ波(RFA,RITA)での経皮的肝腫瘍の治療			
医療技術名	睡眠障害に対する終夜睡眠ポリグラフ検査	取扱い患者数	42人
当該医療技術の概要: 終夜約8時間の脳波を含むポリグラフ記録を行い、不眠、過眠などの睡眠障害および睡眠随伴症の診断を行う。			
医療技術名	術中脳脊髄機能モニタリングとしてABR,SSEP,MEPの誘発電位記録	取扱い患者数	65人
当該医療技術の概要: ABR,SSEP,MEPの誘発電位記録を脳脊髄手術中に行い術後の神経欠落症状の出現を防ぐ。			

医療技術名 経食道心臓超音波検査(デボテ中含む)	取扱い患者数 187人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>先天性心疾患、弁膜症、人工弁置換術後、左心耳内血栓など通常の経胸壁エコー検査では、詳細な情報が得られない場合、経食道的アプローチは有用となる</p>	
医療技術名 睡眠潜時反復測定法(MSLT)	取扱い患者数 2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>客観的な日中の過度の眠気測定、特にナルコレプシーの補助診断のため、脳波記録を2時間ごとに繰り返し行い、眠りにつくまでの時間とそれに伴う臨床症状を記録する。</p>	
医療技術名 PCPSの臨床応用の拡大	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>重症肺血栓塞栓症、心肺停止後の循環呼吸不全は早急に対応することが予後を決定する。このような疾患に対して循環呼吸不全に対する補助としてPCPSを臨床応用している。</p>	
医療技術名 急性肺障害に対するCHDF療法	取扱い患者数 12人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>敗血症、アレルギー性肺肺炎、重症肺炎などに伴う呼吸不全に対しては根本的な原因に対する治療が必要であるが、呼吸不全の病態を増悪する humoral mediator や endotoxine などの吸着、除去を行いながら水分管理、腎不全管理を行えるCHDFを導入している。</p>	
医療技術名 重症心不全患者に対する治療	取扱い患者数 30人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>重症心不全患者に対し、人工呼吸管理をはじめ大動脈バルーンポンピングと併用し、新しい心不全薬を組み合わせた治療を行っている。</p>	
医療技術名 特殊急性中毒に対する治療	取扱い患者数 21人
<p>当該医療機関の概要:</p> <p>一般中毒はもとより、自家製の青酸中毒キット、アセトアミノフェン中毒キットを常備し、中毒物値をモニターしながら治療法を選択し、特殊な急性中毒に対処している。</p>	
医療技術名 重症肺炎患者に対する持続血液濾過透析、およびエンドトキシン吸着による治療	取扱い患者数 6人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>重症肺炎患者では血中サイトカイン、エンドトキシン除去を目的に持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着を行い、他の全身管理と併用して行っている。</p>	
医療技術名 心肺機能停止例に対する蘇生術後の管理	取扱い患者数 22人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>東京消防庁のホットライン要請による病院前心肺停止例を24時間体制で受け入れ、二次救命処置による蘇生術を行い心拍再開例については引続き集中治療を行い完全社会復帰を目標に行っている。</p> <p>低体温療法も適応によって導入している。</p>	
医療技術名 化学発光抗体免疫測定法(CLEIA)を用いたIL6の測定	取扱い患者数 66人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>Intuloikin の測定は、今までのところキットが高価なこともあり、実際のSIRS等の診断や抗炎症治療の指標となり得なかったが、迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。</p> <p>IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>	
医療技術名 早期経腸栄養	取扱い患者数 72人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>各疾患に対して、その病態において、適切な経腸栄養を早期から開始している開始時期は入室24時間以内を目標にしている。迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。</p> <p>IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>	
医療技術名 PMCT	取扱い患者数 6人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>心肺停止後、蘇生を一時するが、その死因について確定するために、死亡確定後家族等の希望により、造影CT等を施行する。死因検討が可能である。</p>	
医療技術名 無交叉・O型濃原血投与	取扱い患者数 4人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>外傷や血液型に対する不規則抗体出現等で出血性ショック患者には無交叉でO型濃血投与を施行する。</p>	
医療技術名 Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いたHuman Epidermal Growth factor Receptor (EGFR)遺伝子増幅の検査	取扱い患者数 25人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>癌の分子標的治療薬としてEGFRを対象としたそのチロシンキナーゼ活性の阻害剤が開発され臨床応用されている。本検査法はEGFR遺伝子増幅を原因としてその蛋白質が過剰発現しているかを判定し、これらの治療薬の効果予測を目的とする検査法である。</p>	

医療技術名	Fluorescence in situ hybridization (FISH)法を用いたアスペルギルス感染の診断	取扱い患者数	60人
当該医療技術の概要： 真菌感染症の診断には培養法による確認が必須であるが、種類の補助診断法に頼らざるを得ない場合も少なくない。本検査法は真菌遺伝子に対する特異的プローブを用いたFISH法により、迅速かつ高い精度で真菌遺伝子の検出を目的とした遺伝子診断法である。			
医療技術名	癌細胞の薬剤感受性に関する遺伝子病理診断	取扱い患者数	320人
当該医療技術の概要： 分子標的薬の普及と保険収載に伴う病理検査室内で行う感受性遺伝子の検索			
医療技術名	PTEG (経皮経食道的胃管挿入術)	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要： PTEG (経皮経食道胃瘻造設) によって胃管留置を行うことにより、経鼻胃管不応例、胃瘻造設不応例の消化管外瘻が可能となった。			
医療技術名	下部直腸癌に対する肛門操作先行の内肛門括約筋切除術	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要： 従来下部直腸癌に対しては、直腸切除術、永久人工肛門術が行われていたが、肛門温存術式として、内肛門括約筋切除術を施行している。当科では更に難易度の高い肛門操作を先行する術式を選択し、腹腔鏡下手術にも応用している。			
医療技術名	深部痔ろうに対するエコーナビゲーション手術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要： 深部痔ろうの手術に際して、縮小手術を行うと再発率が上昇し、拡大手術を行うと、肛門機能の低下が危惧される。超音波ガイド下にリアルタイムに手術をすることにより、両者のバランスがとれた手術が施行可能となる。			
医療技術名	COPD急性増悪に対するNPPV療法	取扱い患者数	7人
当該医療技術の概要： COPD急性増悪時は高炭酸ガス血症を伴った呼吸不全になり、呼吸管理にはNPPV療法により、換気補助が必要になる。			
医療技術名	間質性肺炎に対するNAC吸入療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要： 間質性肺炎の進行を抑制する方法としてN-アセチルシスライン吸入方法を導入する技術。			
医療技術名	EBUSを使用した肺病理診断	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要： 超音波気管支鏡を使用した、繊維生検方法。			
医療技術名	チェーン・ストークス呼吸に対するASV療法	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要： チェーン・ストークス呼吸療法に対して、ASV療法による呼吸補助を行う方法。			
医療技術名	肺癌に対するテーラーメイド化学療法	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 進行性肺癌に対して、EGFR、合併症、社会的背景など勘案して、個々に最適な化学療法を選択を行う。			
医療技術名	副甲状腺ビタミンD及びエタノール注入療法	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要： 長期透析合併症のひとつの2次性副甲状腺機能亢進症に対するインターベンション			
医療技術名	腹膜透析 (PD) 及びPD・血液透析 (HD) 併用療法	取扱い患者数	46人
当該医療技術の概要： PDはQOLの面から、HDにまさる面が大きい。近年、残腎機能の低下にあわせたPD・HD併用療法の有用性が認められ、積極的に導入している。			
医療技術名	小児、特に低体重・低年齢児に対する腎移植	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要： 体重が10kgに満たない、又年齢が5歳以下の末期腎不全小児の治療として、腎移植を行っている。			
医療技術名	ABO式血液型非適合者間腎移植	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要： レシピエントの血中の抗A抗体、抗B抗体を除去し、抗リンパ球抗体を併用し厳重な免疫抑制療法を行うことにより、従来不可能であった血液型不適合ドナーからの腎移植を行っている。			

医療技術名	HighRiskな原疾患を持つ患者への腎移植	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 巣状糸球体硬化症は移植腎の原疾患が腎移植への再発が問題である。下部尿路の発生異常を伴った、低・異型性腎を原疾患とする場合、術前より尿路変更や膀胱拡大術が必要とされ、管理は容易ではない。小児のWilms腫瘍を原疾患とする場合など、下大静脈欠損例では移植腎静脈を吻合する静脈に多くの工夫が要求される。その他、各種原疾患に応じた、高度な腎移植を行っている。			
医療技術名	第2次・第3次腎移植	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 何らかの理由で一次移植腎の機能が喪失した患者への2次・3次移植は、抗HLA抗体の形成などにより、免疫学的にリスクが高い上に、長期抑制にて、合併症の発生率も高い。			
医療技術名	内シャントのインターベンション治療	取扱い患者数	215人
当該医療技術の概要: 従来手術でしか再建できなかった血液透析のバスキュラーアクセスを、インターベンション治療を行うことで、温存できることが多くなる。特に血管に乏しい患者には有用な技術である。			
医療技術名	抗HLA抗体陽性例の腎移植	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 抗HLA抗体陽性患者に対する腎移植は、急性拒絶反応を発症しやすく、長期の生着率も不良な事が判明している。特にリンパ球クロスマッチ陽性例では、移植は禁忌とされていたが、抗リンパ球抗体の投与や、各種免疫抑制剤の開発、血漿交換の併用で、移植が可能になりつつある。			
医療技術名	小児腹膜透析	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 末期腎不全の小児では、血液透析は安全に行えない。腎移植が最善の治療であるが、やむを得ない場合は腹膜透析の適応となるが、成人と違った、特殊な管理技術が必要である。			
医療技術名	顎変形症の手術	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 顎変形症手術のうち、下顎枝矢状分割法(SSRO)は術前後の顎関節偏位を極力少なくなることが求められる。当科で開発した顎関節Repositioning法は、専用の手術器械をSSROと共通化して手術時間の短縮を図るとともに、骨に対する余分な孔開けを廃止、出血量の削減と安全性の向上、かつ正確なRepositioningを実現したもので、従来の術式に比し明らかに良好な結果を得ている。			
医療技術名	出血性素因の口腔施術	取扱い患者数	90人
当該医療技術の概要: 抗血栓凝固療法下の患者における外科手術では、抗凝固剤の中断されることが多いが、独自の止血法により投薬を中断することなく手術を実施している。ほとんどの症例で後出血をみず、投薬の中断による原疾患への影響、再発や増悪のリスクを回避している。この止血法はまた、血小板や凝固因子系に異常をきたす疾患において輸血量削減に貢献している。			
医療技術名	Critical care を用する患者の口腔施術	取扱い患者数	110人
当該医療技術の概要: 呼吸循環モニター下に、全身状態の低下した患者、及び循環器系合併症を有する患者で安全な医療を提供している。			
医療技術名	口腔癌に対する集学的治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 進展範囲および病期別に、化学・放射線・手術療法のレジメンを定め、根治性と機能温存を最大限実現するためにマイクロサージャリー、各種インプラント、有茎・遊離自家組織移植の技術を動員して良好な治療成績をあげている。			
医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の口腔装具による治療	取扱い患者数	15人
当該医療技術の概要: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対し、当科で独自に開発した下顎位の移動量調節型Prosthetic mandibular advancement (東邦式PMA) は、顎関節や咀嚼筋群への副作用を減じ、治療継続におけるコンプライアンスを向上、有効率は90%以上を得ている。			
医療技術名	舌接触補助床による摂食嚥下障害の治療	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要: 摂食嚥下障害における舌接触補助床(特定の形態を付与した口蓋床)を調製・装着することにより、舌背と口蓋接触を助け、嚥下運動の補助・反射の促進を図る。これにより頭頸部領域の術後機能障害や、中枢性の嚥下障害等の患者において効果を発揮している。			

医療技術名 内視鏡視下椎間板切除術	取扱い患者数 24人
当該医療技術の概要： 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲手術をめざし、内視鏡視下にヘルニア腫瘤の摘出を行っている。	
医療技術名 脊椎固定術	取扱い患者数 78人
当該医療技術の概要： 脊椎の変形が不安定性に対して、ケージとスクリューロッドを用いて脊椎を固定し、術前症状の改善を図っている。	
医療技術名 顕微鏡下、椎間板ヘルニア摘出術	取扱い患者数 6人
当該医療技術の概要： 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲化をめざし、顕微鏡視下にヘルニア腫瘤の摘出を行っている。	
医療技術名 コンピュータナビゲーションシステムの使用	取扱い患者数 18人
当該医療技術の概要： 脊椎インストルメンテーション手術時に個々に最も適したスクリューインプラントの設置を行うためにコンピューター計測をもとにスクリュー刺入を正確に行うためにナビゲーションシステムを使用している。	
医療技術名 自己血回収、輸血	取扱い患者数 301人
当該医療技術の概要： 輸血をすることが予測される患者に対して、感染症の予防、輸血量削減を目的に手術中より自己血回収装置を使用している。人工関節置換術後のドレーン血も自己血回収装置を使用し回収しているが、有用な方法である。	
医療技術名 自己血輸血	取扱い患者数 411人
当該医療技術の概要： 保存血輸血による副作用を予防する目的で、輸血が必要である予定手術の患者に対して、あらかじめ術前に自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。	
医療技術名 人工関節置換術	取扱い患者数 308人
当該医療技術の概要： 膝、股、肩、足、肘関節の変形性変化による疼痛、可動域制限などに対して、QOLの向上を目的として人工関節置換術を行い良好な成績を得ている。	
医療技術名 関節リウマチに対する生物学的製剤治療	取扱い患者数 118人
当該医療技術の概要： 関節リウマチの関節炎には炎症性サイトカイン(IL-1,IL-6,TNF- α 72など)が大きくかかわっていることが知られている。近年、関節リウマチの治療法として、これらの炎症性サイトカインに対する生物学的製剤が臨床応用されている。従来の抗リウマチ薬に抵抗性の関節リウマチ患者に対して生物学的製剤を用い治療している。	
医療技術名 悪性骨・軟部腫瘍広汎切除術	取扱い患者数 6人
当該医療技術の概要： 悪性骨・軟部腫瘍に対する広汎手術及び機能再建手術を行なっている。	
医療技術名 造影超音波検査	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 造影超音波を乳腺疾患に応用し、質的診断にに応用する。	
医療技術名 Off pump CABG(OPCAB)	取扱い患者数 25人
当該医療技術の概要： 人工心肺装置を用いずに冠動脈バイパス術を施行している。高齢者や慢性腎不全患者などのハイリスク患者の成績向上につながり、虚血性心疾患患者のICU滞在期間、入院期間は大幅に短縮された。	
医療技術名 Endo Vascular Surgery	取扱い患者数 25人
当該医療技術の概要： 閉塞性動脈硬化症の患者に対して、血管内腔側よりアプローチして、カテーテル法により、ステント装置により動脈狭窄部や閉塞部を拡張、著明な改善が得られている。患者に与える生体侵襲が低く、入院期間も短縮された。	

医療技術名 Minimally Invasive Cardiac Surgery	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要： 小児の先天性心疾患や成人の弁膜症患者に対して、皮膚小切開、胸骨部分切開により、 心臓にアプローチして、小さな手術視野からでも人工心肺装置が確立できる特殊な送・脱血カニューレを使用し、 低侵襲な開心術が可能となった。</p>	
医療技術名 人工心肺装置・回路の低容量化と同種血輸血量削減	取扱い患者数 35人
<p>当該医療技術の概要： 小児心臓手術を中心として、人工心肺装置・回路。低容量化を図り、同種血輸血量は大幅に削減され、無輸血率 の著明な向上・改善につながった。</p>	
医療技術名 ボツリヌス毒素による顔面眼けいれんの治療	取扱い患者数 25人
<p>当該医療技術の概要： ボツリヌス毒素を注射することで、顔面及び眼瞼けいれんを改善させる。</p>	

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	32人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	24人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	25人	・原発性胆汁性肝硬変	29人
・全身性エリテマトーデス	195人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	35人
・再生不良性貧血	17人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	32人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	24人	・特発性間質性肺炎	32人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	112人	・網膜色素変性症	19人
・特発性血小板減少性紫斑病	39人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	25人	・肺動脈性肺高血圧症	32人
・潰瘍性大腸炎	146人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	9人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	6人	・慢性血栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	15人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	44人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	23人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	46人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	32人	・肥大型心筋症	6人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	13人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	66人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	13人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	26人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーション手術	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・PPH	・
・胎児心超音波検査	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下肝部分切除術	・
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月8回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 65 例 / 部検率 6.20%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性疾患克服研究事業 特定疾患微生物的原因究明に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	6,000	補助 厚生労働省
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 深在性真菌症と輸入真菌症に関する新しい検査方法と抗真菌薬の開発並びに病院因子の解明に向けたポストゲノムの基盤的研究	渋谷 和俊	病理診断科	2,000	補助 厚生労働省
千葉大学真菌症医学研究センター活性応答分野 共同利用研究A 環境内真菌の吸入と非感染症ヒト疾患との関連に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	250	補助 文部科学省
感染症・免疫難病の先進医療技術開発	渋谷 和俊	病理診断科	1,800	補助 文部科学省
大腸癌における低酸素誘導ゲノム不安定性の分子機構の解明	渋谷 和俊	病理診断科	500	補助 文部科学省
低蛋白質ミルク摂取の栄養学的意義に関する研究	与田 仁志	新生児科	1,600	委託 糧食研究会
肥厚性皮膚骨膜炎における遺伝子診断と生化学的検査を踏まえた新しい病型分類の提言と既存治療法の再評価に関する研究	石河 晃	皮膚科	1,500	補助 厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患克服のための生体試料の収集に関する研究	石河 晃	皮膚科	500	補助 厚生労働省
病原活性を持つ新しいモノクローナル抗体を用いた落葉状天疱瘡水泡形成の解明	石河 晃	皮膚科	1,100	補助 文部科学省
解剖学的統計モデルを用いた顔のCG表現	丸山 優	形成外科	700	補助 文部科学省
創傷治癒における骨髄細胞 (Fibrocyte) の関与とその発現異常	丸山 優	形成外科	1,500	補助 文部科学省
ケロイドにおけるMMPsとTIMPsの発現異常による増殖伸展機構の解明	今泉 りさ	形成外科	1,000	補助 文部科学省
関節リウマチにおけるアディポサイトカインの臨床的意義	川合 眞一	膠原病科	700	補助 文部科学省
難治性疾患の医療費構造に関する研究	川合 眞一	膠原病科	1,000	補助 厚生労働省
成育疾患における診断技術、治療法開発を目的としたポストゲノムプラットフォームの構築と応用ー小児リウマチ性疾患、自己免疫疾患におけるマイクロRNAの機能解析と診断、治療への応用ー	川合 眞一	膠原病科	2,000	補助 厚生労働省
日中韓大臣生命に基づく医薬品の民族差に関する国際共同臨床研究	川合 眞一	膠原病科	218,297	補助 厚生労働省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	遠藤 平仁	膠原病科	900	補助 厚生労働省
びまん性肺疾患調査研究班	本間 栄	呼吸器内科	1,300	補助 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究班	本間 栄	呼吸器内科	930	委託 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究班	本間 栄	呼吸器内科	1,500	補助 厚生労働省
人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験にむけた評価系の確立研究班	本間 栄	呼吸器内科	200	補助 厚生労働省
特発性肺腺維症急性増悪及び薬剤性肺障害に関与する日本人特異的遺伝的素因に関する研究班	本間 栄	呼吸器内科	200	補助 厚生労働省
摂食障害の疫学・病態と診断、治療法、転帰と予後に関する総合的研究	坪井 康次	心療内科	400	補助 厚生労働省
心身症診断・治療ガイドラインの標準化とその検証に関する研究	端詰 勝敬	心療内科	600	補助 厚生労働省
重症川崎病患者に対する免疫グロブリン・ステロイド初期併用投与の考課を検討する前方視的無作為化比較試験	佐地 勉	小児科	54,000	補助 厚生労働省
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	佐地 勉	小児科	700	補助 厚生労働省
創薬基盤推進研究事業 政策創薬総合研究事業血管炎治療のための人工ポロクロナルグロブリン製剤の開発と安全性確保に関する研究	佐地 勉	小児科	700	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業 難治性川崎病の治療ガイドライン	佐地 勉	小児科	1,500	補助 厚生労働省
小児免疫・アレルギー疾患の発症・重症化の機序と治療法についての研究	佐地 勉	小児科	1,000	補助 国立成育医療研究センター
難治性疾患克服研究事業 特発性造血障害に関する研究	小原 明	小児科	1,000	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業 先天性角化不全症の効果的診断法の確立と治療ガイドラインの作成に関する研究	小原 明	小児科	500	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業 先天性赤芽球癆 (Diamond Blackfan貧血) の効果的診断法の確立に関する研究	小原 明	小児科	500	補助 厚生労働省
家庭用品危害情報制度 小児科モニター病院	小原 明	小児科	200	補助 厚生労働省
難治性疾患克服研究事業 Congenital dyserythropoietic anemia (CDA) の効果的診断法の確立に関する研究	小原 明	小児科	1,000	補助 厚生労働省
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業 小児輸血療法の安全性、有効性、効率性の向上に関する研究	小原 明	小児科	500	補助 厚生労働省
虚血性心疾患における心電図同期SPECT (AGS) 検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究-3	山崎 純一	循環器内科	252	委託 循環器病研究振興財団

計 36

(注) 1 国、地方共同団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本呼吸器学会誌	間質性肺炎合併全肺性硬化症における難治性肺高血圧にSideuatilとBoseutauが有効と考えれた例	後町 杏子	呼吸器内科
Internal Medicine	Pulmonary hamartoma diagnosed by convey probeEBUS-TBNA	秦 美暢	呼吸器内科
臨床呼吸生理	気腫を合併した特発性肺線維症の臨床的検討	杉野 圭史	呼吸器内科
日本呼吸器学会誌	3D-CTにより診断し、異常血管のみの切除にて治療した肺底大動脈起始症の1例	後町 杏子	呼吸器内科
Internal Medicine	Acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia following lung surgery in 3 of 68 consecutive patients	坂本 晋	呼吸器内科
呼吸と循環	N-アセチルシステイン	本間 栄	呼吸器内科
難病と在宅ケア	特発性肺線維症の最新治療	本間 栄	呼吸器内科
Obstet Gynecol Int. 2010;2010. pii:437528. Epub 2010 Jul 12.	Effects of assisted reproduction technology on placental imprinted gene expression	片桐 由起子	産婦人科
日本産婦人科学会東京地方部会誌 (0288-5751)59巻4号 522-526(2010.12)	若年に発症した子宮内膜間質肉腫の1例	吉田 義弘	産婦人科
産婦人科の実際(0558-4728) 59巻12号 2111-2115(2010.10)	当院の40歳以上ART症例における臨床成績の検討	宗 晶子	産婦人科
産婦人科の実際(0558-4728) 59巻11号 1861-1864(2010.10)	【外来診療マニュアル】不妊・内分泌 子宮筋腫合併不妊	森田 峰人	産婦人科
産婦人科の実際(0558-4728) 59巻9号 1433-1436(2010.9)	生殖補助医療により妊娠し前置癒着胎盤となった1例	青木 千津	産婦人科
Journal of Mammalian Ova Research(1341-7738)Vol. 207 Vol. 27NO. 1 51-57(2010.4)	Investigation of Imprinted Gene Expression for In Vitro Fertilized Mouse Embryos	福田 雄介	産婦人科
日本産婦人科学会東京地方部会誌 (0288-5751)59巻3号 378-383(2010.9)	妊娠中に特発性血小板減少性紫斑病が疑われ、分娩後に日本住血吸虫症と診断された1例	高橋 賢司	産婦人科
日本臨床 (0047-1852) 68巻増刊号7 広範囲血液・尿化学検査 免疫学的検査 (4) 501-504 (2010.7)	【広範囲 血液・尿化学検査免疫学的検査 第7版 その数値をどう読むか】 内分泌学的検査 性腺・胎盤関係 抗ミューラー管ホルモン (AMH)	宗 晶子	産婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床婦人科産科 (0386-9865) 64 巻8号 1179-1185(2010.8)	【子宮内膜症・腺筋症の外科的治療 機能温存をめざして】 卵巣チョコレート嚢胞の機能温存外科治療のコツ チョコレート嚢胞摘出術 (核出術)	内出 一郎	産婦人科
日本産婦人科学会東京地方部会 会誌 (0288-5751)59巻2号 205-208(2010.6)	妊娠27週に腎後性腎不全をきたした両側腎嚢胞合併妊娠 の1例	長島 克	産婦人科
産婦人科の実際(0558-4728) 59巻5号 717-722(2010.5)	【妊孕能の可能性と限界を考える】 卵巣機能と加齢	片桐 由起子	産婦人科
産婦人科治療 (0558-471×) 100 巻増刊 631-636 (2010.4)	【産婦人科救急のすべて】 産科救急の診療 子宮外妊娠	森田 峰人	産婦人科
日本産科婦人科学会関東連合地 方部会誌 (0285-8096) 47巻1号 127-135 (2010.4)	【内視鏡手術におけるリスクと工夫】 腹腔鏡下子宮筋腫核 出術における適応と限界についての後方視的検討	内出 一郎	産婦人科
産婦人科の実際(0558-4728) 59巻5号 381-387(2010.4)	【産婦人科診療 pros and cons】 生殖 不妊患者の各種子 宮筋腫治療	内出 一郎	産婦人科
顎顔面補綴 33 (2) 45-51	口腔悪性腫瘍術後の摂食・嚥下障害に対する舌接触補助床 を用いた機能回復法の検討 第2報	関谷 秀樹	口腔外科
顎顔面補綴 33 (2) 66-69	口腔悪性腫瘍術後の摂食・嚥下障害に対する舌接触補助床 を用いた機能回復法の検討 第3報として	関谷 秀樹	口腔外科
保健つるみ 33 10-13	特発性血小板減少性紫斑病患者の歯周治療	三神 奈緒子	口腔外科
Am J Surg 197(4):e46/50, 2009	Transanal rectal dissection : a procedure to assist achievement to laparoscopic total mesorectal exasion for bulky tumor in narrow pelvis.	船橋 公彦	消化器外科
Neuro-Oncology18(2) 118(2)60- 63	術前診断に苦慮した頭蓋骨腫瘍の一例	横田 京介	脳神経外科
皮膚臨53 (2) :324-325 (2011.2)	アトピー素因のある患者に生じた職業性接触皮膚炎の一例	江野澤 佳代	皮膚科
臨床皮膚科 65巻2号 (2011.2)	蜂窩織炎を伴ったアカツキ病の1例	江野澤 佳代	皮膚科
形成外科	【形成外科の治療指針update 2010】 四肢の疾患 グロムス腫瘍	丸山 優	形成外科
形成外科	【形成外科の治療指針update 2010】 四肢の疾患 指趾粘液嚢胞	丸山 優	形成外科
Skin ResTeshno 1	Three-dimensional facial simulations and measurements:change associated with facial expression	岡田 恵美	形成外科
形成外科診療プラクティス 皮弁外科	皮弁・フラップの分類 深部血管系からの分類	丸山 優	形成外科
Wound Repair Regen	CD34/LSP-1-POSITIVE FIBROCYTES IN SKIN WOUND HEALING	猪股 直美	形成外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Wound Repair Regen	Promoted activation of matrix metalloproteinase (MMP)-2 in keloid fibroblasts and increased expression of MMP-2 in collagen bundle regions: implications for mechanisms of keloid progression	今泉 りさ	形成外科
整・災外 53(8)	小さな軟部肉腫の治療	土谷 一晃	整形外科
J of The Japan Society for Simulation Surgery 18(2.3)	Surgical planning of atlanto-axial complex using anavigation system	高橋 寛	整形外科
J of The Japan Society for Simulation Surgery 18(2.3)	Posterior instrumentation surgery using pedicle screws and a navigation system for patients with thoracolumbar spinal deformity	和田 明人	整形外科
J Spine Resl(9)	腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下椎間板摘出術の治療成績	高橋 寛	整形外科
ペインクリニック 31(10)	抗リウマチ薬の新展開 (生物学的製剤)	勝呂 徹	整形外科
整・災外 53(8)	50歳以下の患者に対する人工膝関節置換術の臨床成績	宮崎 芳安	整形外科
日人工関節会誌 40	外反膝における人工膝関節置換術成績向上の工夫	宮崎 芳安	整形外科
医学のあゆみ 233 538-544 (2010. 7)	新生児遷延性肺高血圧症の診断と治療 肺高血圧 内科的治療の最前線—この難病疾患に挑む—	与田 仁志	新生児科
小児科診療73 1549-1556(2010. 9)	心血管作動薬の使い方 (新生児医療必修基礎知識)	与田 仁志	新生児科
周産期医学40(suppl) 686-691 2010	胎児水腫 周産期診療指針2010	与田 仁志	新生児科
周産期医学40(suppl) 692-695 2010	心不全 周産期診療指針2010	与田 仁志	新生児科
周産期医学40(suppl) 696-700 2010	ショック 周産期診療指針2010	飯島 重雄	新生児科
Fetal Neonatal Medicine 2 130-135 (2010 12)	多胎管理の進歩—双胎間輸血症候群における心血管障害	与田 仁志	新生児科
Heart View1 20-25 (2011. 1)	新生児期の遷延性肺高血圧とは? 「肺循環・肺高血圧を識る—診断・治療の現在—」	与田 仁志	新生児科
周産期医学41 116-119 (2011. 1)	周産期循環管理アップデート【付録 循環管理薬剤一覧】	与田 仁志	新生児科
中山書店 2010. 4 242-251東京	「先天性心疾患: 診断から治療方針決定まで」小児科臨床ピクシス16新生児医療を身につける	与田 仁志	新生児科
中外医学社 2011. 2 667	—未熟児PDAの診断と管理—EBM小児科疾患の治療2011	与田 仁志	新生児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diagn Pathol 5:27 2010(DOI:10.1186/1746-1596-5-27)	Duodenal gangliocytic paraganglioma showing lymph node metastasis:A rare case report.	大久保 陽一郎	病理診断科
J Med Ultrasonics, 2010(DOI:10.1007/s10396-009-0248-9) 4:265. 2010(DOI:10.1186/1752-1947-4-265)	Comparlision of ultrasound colored image views produced by application of statistical analysis of radio-frequency signais and histological findings in patients with chronic hepatitis C	中島 早苗	病理診断科
J Med Case Reports 4:265. 2010(DOI:10.1186/1752-1947-4-265)	Diagnosis of systemic toxoplasmosis with HIV infection using DNA extracted from paraffin-embedded tissue for polymerase chain reaction : a case report.	大久保 陽一郎	病理診断科
日本臨床細胞学会雑誌 49(2):605, 2010	胸水中に出現した異所性ホルモン産生性副腎皮質癌の1例	石井 真由美	病理診断科
深在性真菌症～SFI Forum ～, 6:26-9, 2010	真菌の形態—グロコット染色細胞診標本をよむ—	三宅 洋子	病理診断科
Nephron Clin Pract, 4:117(1):c57-c66, 2010	Increased ACE and Decreased ACE2 Expression in Kidneys from Patients with IgA Nephropathy.	水入 苑生	病理診断科
Intern Med, 2010;49(19):2117-21, 2010	A case of juvenile acromegaly that was initially diagnosed as severe congestive heart faikure from acromegaly-induced dilated cardiomyopathy.	須江 麻理子	病理診断科
J Clin Microbiol , Nov24, 2010	Identification of Fusarium Species in Formalin-Fixed and Paraffin -Embedded Sections by in Situ Hybridization Using Peotide Nucleic Acid Probes.	篠崎稔	病理診断科
Intern Med, 2010;49(23):2605-8, 2010	Bird Fancier ' s Lung Which Developed in a Pigeon Breeder Presenyng Organizing Pneumonia.	伊藤 貴文	病理診断科
The American Journal of Case Reports, 2010;11:150-4, 2010	Localization of insulinoma by arterial stimulation and venous sampling(ASVS) and intraoperative ultrasonography.	廣井 直樹	病理診断科
Rare Tumors:2010;2:126-9(DOI:10.4081/rt.2010.e46)	Sarcomatous malignant peritoneal mesothelioma with large bowel involvement.	金子 奉暁	病理診断科
Diagn Pathol . 2011;6:27(doi:10.1186/1746-1596-6-27)	Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy induced by gastric carcinoma:Morphometric and immunohistochemical analysis of six autopsy cases.	大久保 陽一郎	病理診断科
e-publish BMC Cancer. 2011;11:76(doi:10.1186/1471-2407-11-76)	Leiomyosarcoma with partial rhabdomyoblastic differentiation:First case report of primary cardiac origin.	大久保 陽一郎	病理診断科
Otology Japan (20)1, 31-35	内視鏡下診療	枝松 秀雄	耳鼻咽喉科
自立神経 47巻2号 93-101	第62回日本自律神経学会総会 EDの基礎と臨床 臨床の立場から	中島 耕一	泌尿器科
Mouthly Book Medical Rehabilitation 117巻:131-137	糖尿病と性機能障害	永尾 光一	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Rheum. 2010 Jun;62(6):1641-1649. 【Epub 2010 Mar 10】 (PMID:20222108) (doi:10.1002/a rt.27450)	Adiponectin stimulates prostaglandin E2 production in rheumatoid synovial fibroblasts.	楠 夏子	膠原病科
Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi. (JPN J Clin Immunol.)2010 JUN ;33(3):162- 168. (PMID:20601838) (doi:10.21 77/jsci.330162)	Systemic lupus erythematosus complicated by recurrent pneumothorax:case report and literature review.	田中 菜穂子	膠原病科
J Clin Pharmacol. 2010 Oct;50(10):1171-1179. 【Epub 2010 Fed 4】 (PMID:20133510) (doi:10.1177/0 091270009355813)	Efficacy and safety of ketoprofen patch in patients with rheumatoid arthritis:a randomized, double- blind, placebo-controlled study.	川合眞一	膠原病科
Int J Rheum Dis. 2010 Oct;13(4):e67- e69. (PMID:21199457) (doi:10.11 11/j.1756-185X.2010.01544.x)	Exacerbation of adult-onset Still' s disease, possibly related to slevation of serum tumor necrosis factor- α after etanercept administration.	金子 開知	膠原病科
Clinical transplantation	Protocol biopsies for focal segmental glomerulosclerosis treated with plasma exchange and rituximab in a transplant patient	酒井 謙	腎センター
Journal of the Medical Society of Toho University	Angiotensin-Converting Enzyme 2 Expression in a Human Proximal Tubular Cell Line HK-2	青木 敏行	腎センター
Renal failure	Reappraisal of proteinuria and estimated GFR to predict progression to esrd or death for hospitalized chronic kidney disease patients.	大橋 靖	腎センター
The Mainichi Medical Journal	腎ドナーへのドパミン前投与で移植後の透析必要度が 低減	青木 裕次郎	腎センター
今日の移植	海外におけるopt inからopt outへの潮流	相川 厚	腎センター
小児科	【わが国の小児臓器移植医療をいかに発展させるか】 小児臓器移植における社会の役割	相川 厚	腎センター
腎と透析	療法選択説明において医師と看護師が協同することの 効果	酒井 謙	腎センター
腎と透析	腎移植の合併症	酒井 謙	腎センター
腎と透析 別冊 腹膜透析 2010	腹膜障害の基礎と臨床 中性液、icodextrin液による TGF- β 1、VEGF発現増加とその抑制	水入 苑生	腎センター
腎と透析 別冊 腹膜透析 2010	被嚢性腹膜硬化症 (EPS) EPS発症から3年後に腸管壊 死をきたし死亡した1例	鈴木 康紀	腎センター
腎移植症例集2010	腎移植後メタボリックシンドローム	酒井 謙	腎センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
第43回日本臨床腎移植学会記録集 腎移植症例集2010	出産後に蛋白尿の遷延を認めた腎移植後の一例	青木 裕次郎	腎センター
日本小児腎不全会誌	ドナー腎の上極枝をレシピエントの内腸骨動脈に吻合した小児腎移植の1例.	二瓶 大	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	腎移植長期生着例の定期腎生検組織像	酒井 謙	腎センター
日本透析医学会雑誌	ダルベポエチンの積極的使用により輸血量の軽減が得られた骨髄異形成症候群合併透析患者の1例	鈴木 康紀	腎センター
日本臨床	【臓器移植 脳死下における臓器移植を考える】臓器移植における我が国と海外の比較 改正臓器移植法を中心に	相川 厚	腎センター
日本小児腎不全会誌	肥大型心筋症を合併する患者の腎移植周術期における内科的管理.	原田 涼子	腎センター
:腎と透析 別冊 腹膜透析 2010	心血管合併症 Intensive dialysisを要した尿毒症性心筋症の1例	服部 吉成	腎センター
:腎と透析 別冊 腹膜透析 2010	心血管合併症 腹膜透析患者の早朝血圧と来院時血圧の実態	田中 仁英	腎センター
メタボリックシンドローム	慢性腎臓病(CKD)概念からみた2型糖尿病性腎症 微量アルブミン尿期CKDステージ3・4期群の病態背景	田中 健太郎	腎センター
医工学治療	測定血流量モニタリング装置による処方血流量と実血流量の差異について	津田 圭一	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	尿路・直腸肛門奇形を合併する小児腎移植への長期的管理について	村松 真樹	腎センター
日本腎臓学会誌	保存期慢性腎臓病患者における食塩摂取の腎機能低下に及ぼす影響	天羽 繭子	腎センター
腎炎症例研究	ベザフィブラートの積極的使用により蛋白尿の減少効果を得たりポ蛋白糸球体症の一例	大谷 隆俊	腎センター
GAS Biology Research	Intragastric gas and gastrointestinal diseases.	瓜田 純久	総合診療科
日消誌108:553-563,2011	メタボリック症候群における消化・吸収	瓜田 純久	総合診療科
看護技術57:7-13,2011	栄養と消化・吸収	瓜田 純久	総合診療科
消化と吸収33:237-43,2010	脂肪肝の臨床	杉本 元信	総合診療科
Journal of clinical ulytrasound 38:182-189,2010	Evaluation of local recurrence after treatment for hepatocellular carcinoma by contrast-enhanced ultrasonography using sonazoid:comparrison with dynamic CT	塩澤 一恵	臨床生理機能部
Rad Fan Vol 8.No5:52-54,2010	ソナゾイド造影超音波を用いた進行肝細胞癌に対するソラフェニブの抗腫瘍効果の評価についての検討	塩澤 一恵	臨床生理機能部
INNER VISTON 25.6:76-78,2010	ソナゾイド造影超音波を用いた進行肝細胞癌に対するソラフェニブの抗腫瘍効果の評価についての検討	塩澤 一恵	臨床生理機能部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
INNER VISTON 25.11:53-57, 2010	ペルフルブダン造影超音波によるパラメトリックイメージ造形超音波を用いた進行肝細胞がんに対するソラフェニブの治療評価	塩澤 一恵	臨床生理機能部
Hepatogastroenterology 57(98)195-201, 2010	Recurrence incidence of small HCC in cirrhosis patients by ablation versus injection	和久井 紀貴	臨床生理機能部
Gastroenterology 26:5(1)100-109, 2011	Drinking status of heavy drinkers detected by arrival time parametric imaging using sonazoid-enhanced ultrasonography: study of two cases.	和久井 紀貴	臨床生理機能部
Rad Fan 8:84-86, 2010	肝疾患における造影時相の基礎的検討	和久井 紀貴	臨床生理機能部
Rad Fan 8:69-71, 2010.	難治性腹水症例におけるDenver peritone venous shunt 挿入	和久井 紀貴	臨床生理機能部
睡眠呼吸障害Update2011 27-33 ライフサイエンス 東京 2011	顎顔面形態と上気道	高井 雄二郎	臨床生理機能部
The American Journal of Case Report	Daibetic ketoacidosis associated with adrenocorticotrophic hormone-producing pituitary adenoma.	杉野 郁美	糖尿病・代謝・内分泌科
Diabetol Metab Syndr. 2010 Dec 20;2:71.	Prevalence of adrenal masses in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	廣井 直樹	糖尿病・代謝・内分泌科
Hum Cell. 2010 Nov;23(4):164-72. doi: 10.1111/j.1749-0774.2010.00097.x.	Novel functional hepatocyte cell line derived from spontaneous dwarf rat: model of growth hormone function in vitro.	石川 真由美	糖尿病・代謝・内分泌科
J Atheroscler Thromb. 2011 Jan 27;18(1):1-7. Epub 2010 Oct 29. Erratum in: J Atheroscler Thromb. 2011;18(2):176.	Influence of fatty liver on plasma small, dense LDL-cholesterol in subjects with and without metabolic syndrome.	杉野 郁美	糖尿病・代謝・内分泌科
Intern Med. 2010;49(19):2117-21. Epub 2010 Oct 1.	A case of juvenile acromegaly that was initially diagnosed as severe congestive heart failure from acromegaly-induced dilated cardiomyopathy.	須江 麻理子	糖尿病・代謝・内分泌科
Circ J. 2010 Oct;74(10):2216-24. Epub 2010 Aug 31.	Indoxyl sulfate stimulates monocyte chemoattractant protein-1 expression in human umbilical vein endothelial cells by inducing oxidative stress through activation of the NADPH oxidase-nuclear factor- κ B pathway.	正井 なつ実	糖尿病・代謝・内分泌科
Hum Cell. 2010 May;23(2):58-64.	Establishment and characterization of a novel cell line derived from a human small cell lung carcinoma that secretes parathyroid hormone, parathyroid hormone-related protein, and pro-opiomelanocortin.	石川 真由美	糖尿病・代謝・内分泌科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Atheroscler Thromb. 2010 Apr 30;17(4):410-5. Epub 2010 Mar 3.	Small, dense LDL and high-sensitivity C-reactive protein (hs-CRP) in metabolic syndrome with type 2 diabetes mellitus.	中野 三郎	糖尿病・代謝・内分泌科
検査と技術 (0301-2611)39巻5号 Page393-394(2011. 05)	日本動脈硬化学会のLDLコレステロールに関する見解(解説)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Therapeutic Research (0289-8020)32巻1号 Page107-113(2011. 01)	2型糖尿病合併本態性高血圧患者に対するバルサルタン80mg+ハイドロクロチアジド12.5mg投与の有効性についての検討(原著論文)	廣井 直樹	糖尿病・代謝・内分泌科
月刊糖尿病 3巻2号 Page22-27(2011. 02)	【脂質異常症と糖尿病UPDATE】 糖尿病におけるトリグリセリドリッチリポ蛋白代謝(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
内分泌外科 (0914-9953)27巻3号 Page197-202(2010. 09)	バセドウ病治療中に発見された甲状腺微小乳頭癌の1例(原著論文/症例報告)	廣井 直樹	糖尿病・代謝・内分泌科
検査と技術 (0301-2611)38巻10号 Page905-909(2010. 09)	【免疫反応と臨床検査2010】 生化学 新しい動脈硬化マーカー small dense LDL/レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)/高感度C-反応性蛋白(hs-CRP)(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Therapeutic Research (0289-8020)31巻5号 Page685-690(2010. 05)	2型糖尿病合併本態性高血圧患者に対するロサルタン50mg+ハイドロクロチアジド12.5mg投与の有効性と安全性の検討(原著論文)	廣井 直樹	糖尿病・代謝・内分泌科
糖尿病UP-DATE 26号 Page134-141(2010. 06)	【対糖尿病合併症のイノベーション 成因から管理、治療まで】 危険因子からみた糖尿病合併症対策 病態に応じた脂質コントロールの匙加減(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
月刊糖尿病 2巻9号 Page46-53(2010. 08)	【糖尿病と大血管障害】 診断 高血糖と酸化ストレスマーカー(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Vascular Medicin 6巻3号 Page193-200(2010. 07)	【食後代謝異常から血管病を探る】 食後高脂血症の病態生理を考察する 食後高脂血症はなぜ生じるか(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
新薬と臨床 59巻6号 Page960-965(2010. 06)	ARBバルサルタン長期投与におけるインスリン抵抗性改善作用(原著論文)	上芝 元	糖尿病・代謝・内分泌科
Therapeutic Research (0289-8020)31巻4号 Page563-567(2010. 04)	本態性高血圧症および糖尿病合併高血圧症におけるオルメサルタンへの切り替え投与についての検討(原著論文)	上芝 元	糖尿病・代謝・内分泌科
臨床化学 39巻2号 Page146-151(2010. 04)	インクレチン(総説)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Practice 27巻3号 Page469-477(2010.03)	【脂質異常症 明日からの実地診療に役立つ最新の知識】 実地診療で遭遇する問題点の対応 食後高脂血症の意義 その評価法と管理の実際(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
The Lipid (0915-6607)21巻1号 Page43-51(2010.01)	【サロゲートマーカー】 糖代謝・炎症・酸化 酸化ストレス マーカー(解説/特集)	芳野 原	糖尿病・代謝・内分泌科
Nucl Med Commun. 2010 Jun;31(6):488-94	Significance of performing 123I- metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy at different times for the long-term prediction of cardiac events in patients with dilated cardiomyopathy.	中西 理子	循環器内科

計131

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	総務課 次長 春木 信一
管理担当者氏名	医療情報管理センター 次長 吉野 彰・総務課 早川 英克

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報管理センター 病院日誌は総務課	ターミナルデジット方式について分類
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療の研修の実績	診療科及び総務課	
	閲覧実績	医療情報管理センター	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部及び医事課	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項各号の状況及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課及び感染管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染管理部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部及び中央放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部 総務課 次長 春木 信一
閲覧担当者氏名	事務部 総務課 早川 英克
閲覧の求めに応じる場所	個人情報管理室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	45.7%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	15,333人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,969人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,973人	
	D: 初診の患者の数	56,508人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 総則 ①趣旨 ②安全管理に関する基本的方針2. 組織および体制 ①医療安全管理部の設置 ②安全管理対策委員会の設置 ③医療安全を推進するための組織および体制3. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 ①報告とその目的 ②報告に基づく情報収集 ③報告内容の検討等4. 職員研修 ①職員に対する教育研修 ②医療安全情報の共有 ③医療安全管理マニュアルの作成・更新5. 医療事故への具体的対応・対策 ①医療安全に関する組織的取り組み ②機能する医療事故防止対策 ③適切な医療事故への対応6. 医療従事者間と患者との間の情報共有7. 患者等からの苦情・相談への対応8. 本指針の見直し	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) インシデント及びアクシデントの実態の把握と、その背景要因の分析と評価2) 医療の質と安全を確保するための具体策の策定と実施3) 医療の質と安全を確保するためのマニュアル作成と励行4) 医療の質と安全を確保するための知識の向上を図るための院内研修の実施5) 他の病院における医療事故情報の収集とその要約の院内広報6) 医療安全マニュアルの定期的な点検の実施と改善、及び検証7) 医薬品の安全使用に関する管理8) 医療機器の安全使用に関する管理9) 相談・苦情内容の実態把握および分析と評価	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1) 第1回 医療安全研究会 (4/19 : 179名) 2) 第1回 インфекションコントロールセミナー (6/4 : 78名) 3) 第2回 医療安全研究会 (5/13 : 178名) 4) 第3回 医療安全研究会 (7/5 : 102名) 5) 第1回 医療安全全体研修 (7/8~7/9 : 1,696名) 6) 第4回 医療安全研究会 (10/8 : 51名) 7) 第12回 インфекションコントロールセミナー (11/26 : 119名) 8) 第2回 医療安全全体研修 (12/2~12/3 : 1,668名) 9) 第5回 医療安全研究会 (1/7 : 59名) 10) 平成22年度 未受講者研修 (167名) 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1) 【活動中】 <ul style="list-style-type: none"> ・ グリセリン浣腸 WG、CV閉塞時の対応WG、パニック値 WG、CSII 検討 WG ・ インスリン関連 WG、DVT予防プロジェクト 【終了済】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送関連 WG、サインイン・サインアウト WG、検査部位誤認防止WG 2) 医療安全マニュアル (全項目の見直しを実施) 3) 乳児連れ去りシミュレーション実施 4) 医療安全への患者参加のための「患者さん参加してねカルタ」の作成 	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有（2名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（2）名、兼任（11）名、専従（5）名、顧問（2）名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全管理対策委員会・セイフティーマネジャー会議・部内会議の資料及び議事録の作成及び保存、その他会議の庶務に関すること 2) 医療の質の向上に関すること 3) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること 4) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関すること 5) 医療安全に係わる連絡調整に関すること 6) 患者等からの苦情、相談に関すること 7) 院内巡視 8) 安全管理研修会の企画及び準備 9) その他医療安全対策の推進に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 骨子一院内感染より患者及び医療従事者の身を守るために、手指消毒及び感染予防策を徹底させることを目的として策定した。</p> <ol style="list-style-type: none">1、感染対策に関する基本的考え方2、感染対策のための委員会及び感染管理部の設置と活動内容3、研修に関する基本方針4、発生状況の報告に関する基本方針5、感染症発生時の対応に関する基本方針 等を中心に策定している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 毎月第2金曜日を定例として委員会を開催。感染症発生通知書の集計報告、主要菌サーベイランス報告、マニュアル改定・作成報告、抗菌薬使用状況、耐性菌発生件数、厚労省・東京都等からの通達、研修報告などを行い、院内感染上問題となる状況やその徴候について審議している。また、衛生委員会、医療安全部との連携のもと感染対策の推進を図っている。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年29回
<p>・ 研修の主な内容： 1、全職員対象として年2回実施。①接触感染予防策について②針刺し・切創対策について 2、各職種にあわせた研修の実施。 医師－①抗菌薬化学療法について②抗菌薬の基本知識④結核についてなど 看護師－①感染基礎研修4回/年 ②看護部係会2回/年 その他、臨床工学士、理学・作業・言語療法士、ヘルパー、クラーク、清掃員業務士等への研修を実施している。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1、抗MRSA薬とカバペ 系抗菌薬を全数届出制とした。 2、ICTラウンドの強化－耐性菌ラウンドとMRSA血培ラウンドの開始。病棟ラウンドを各部署年2回実施。各病棟年2回のラウンド時には、事前チェックを行い、リンクナースにラウンドに同行してもらい一緒に現場の問題を把握してもらうように改善した。 3、蓄尿方法の改善－蓄尿カップは個人用としていたが、1回ごとの消毒が不徹底であった。毎回洗浄、それが不可能な部署はディスポカップを導入した。 4、東京都、大田区、保健所、地域の薬剤師会、医師会と連携し、強毒性新型インフルエンザ診療訓練を実施した。</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報・ 使用方法に関する事項・ 業務手順書に関する事項・ 副作用が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (○有・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の改訂・ 手順書に基づく業務の実施の巡回チェック	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>医薬品医療機器等安全性情報、院内発生副作用事例報告等の情報を薬事委員会にて報告。 他の院内会議でも報告される。 必要に応じ院内メールで科・担当医師レベルに情報伝達が可能。 その他、これらの情報内容の詳細についても過去に報告された分を含めて院内ネット通じて職員は随時閲覧できる体制にある。</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 39 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：・ 輸液・シリンジポンプの操作、注意事項についての講義および実技指導・ 人工呼吸器の操作、注意事項についての講義および実技指導・ 院内電源設備についての講義・ 閉鎖式保育器の操作、注意事項についての講義および実技指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (④・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 外部委託（メーカー）定期保守：人工呼吸器、放射線治療装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器・ 院内実施定期保守：除細動器、人工心肺装置、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (④・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">人工呼吸器用呼吸回路接続トラブルを防止目的で、回路構成等の変更を計画・実施準備	